

# Smart Wellness City 首長研究会



「健幸」をまちづくりの基本に据えた、新しい都市モデル「Smart Wellness City」の構築を目指す、首長の同志が集まり、平成21年11月に発足。(会長:久住見附市長)

## Smart Wellness City 首長研究会・発起人会共同宣言 (抜粋)

我が国の超高齢・人口減社会によって生じる様々な社会課題を、自治体自ら克服するため、この危機感を共有する首長が集結し、健幸をこれからのまちづくりの基本に据えた政策を連携しながら実行することにより、最新の科学技術や科学的根拠に基づく持続可能な新しい都市モデル「SmartWellness City」の構築を目指すものである。

平成21年11月23日 Smart Wellness City 首長研究会・発起人会共同宣言 7県9市  
平成24年 4月 1日現在 13府県19市

### 〈会 員〉

会 長 新潟県 見附市長 久住時男

副会長 新潟県 新潟市長 篠田昭、岐阜県 岐阜市長 細江茂光、  
茨城県 つくば市長 市原健一、兵庫県 豊岡市長 中貝宗治

会 員 新潟県 三条市長 國定勇人、妙高市長 入村明、福島県 伊達市長 仁志田昇司、  
栃木県 大田原市長 津久井富雄、茨城県 牛久市長 池辺勝幸、取手市長 藤井信吾、  
埼玉県 さいたま市長 清水勇人、志木市長 長沼明、静岡県 三島市長 豊岡武士、  
大阪府 高石市長 阪口伸六、福岡県 飯塚市長 齊藤守史、熊本県 天草市長 安田公寛、  
大分県 豊後高田市長 永松博文、鹿児島県 指宿市長 豊留悦男



〈スマートウエルネスシティのゴールイメージ〉

### 【アドバイザー】

慶応大学大学院政策・メディア研究科 金子郁容、  
東京大学名誉教授 板生清  
日本アイ・ビー・エム 最高顧問 北城恪太郎

※ 下 線は、総合特区に指定された7市

### 【有識者】

筑波大学大学院人間総合科学研究科 久野譜也(事務局)、山縣邦弘  
" ビジネス科学研究科 西尾チヅル  
慶応大学経済学部 駒村康平 NPO 地域交流センター 浜田靖彦

## 「健幸長寿社会を創造するスマートウエルネスシティ総合特区」が指定

SWC首長研究会に加盟する7市(上記下線7市)及び筑波大学、(株)つくばウエルネスリサーチと共同で、平成23年9月に国に総合特区の指定を申請し、12月22日に指定を受けました。

### 【目 標】

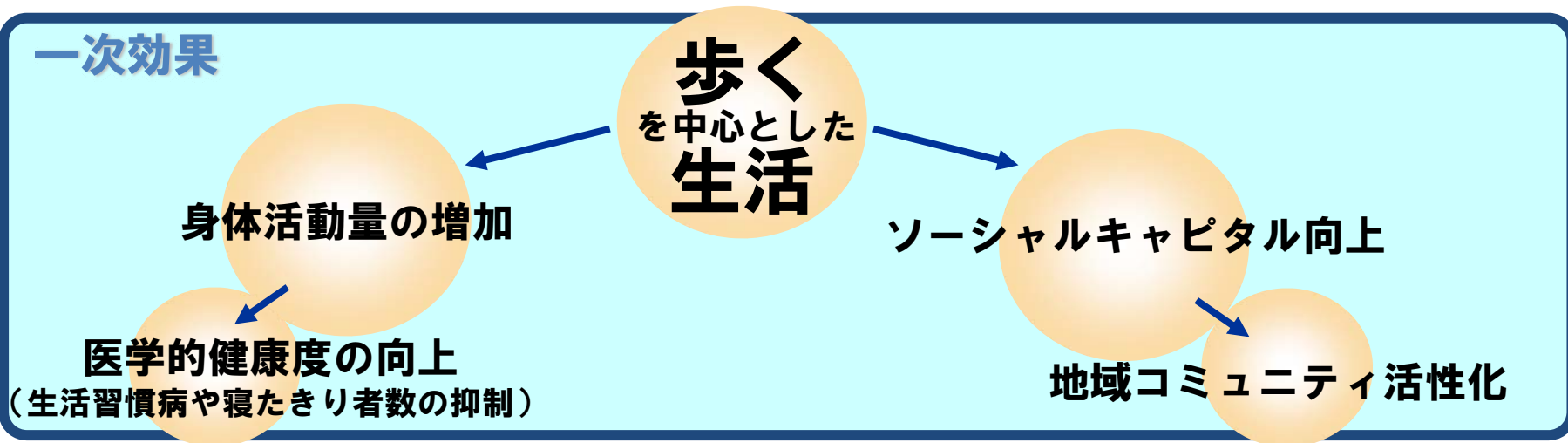
自律的に「歩く」を基本とする『健幸』なまち(スマートウエルネスシティ)を構築することにより、自然と体を動かす人が増え、高齢化・人口減少が進んでも持続可能な先進予防型社会を創り、高齢化・人口減社会の進展による地域活力の沈下を防ぎ、もって、地域活性化に貢献することを目標とする。

# 「歩く」を基本とする『健幸』なまちの実現による効果

## 歩いてしまう、歩かされてしまう「まちづくり」

ポピュレーションアプローチの推進（社会技術の開発）

### 一次効果



### 二次効果

医療費の適正化

行政コストの低減  
(コンパクトなまち)

中心市街地の活性  
(来店者数増加による地域経済への寄与)

### 主な取り組み

- 歩いて暮らすまちづくり条例の制定
  - ・住民の気づき
  - ・推進の責任

- ライジングボラードによる車両の流入制限 (中心市街地、住宅地)
  - ・公共交通によるサポート、弱者への配慮
  - ・歩く事を促すしかけ、インセンティブ施策

- 国保・社保データの一元化による健康クラウドの開発
- 客観的な評価指標の開発

特区のポイント

道路法、道路交通法等

各種ガイドラインなど